

# 個別最適な学びを取り入れた道徳授業の在り方

## －思考ツール活用や話し合い活動における工夫－

高橋 晶      長谷川 正裕      見目 慎也      中井 康平

### I はじめに

令和4年度から5年度にかけて、本校では「多様な実践から考える個別最適な学び ～学習者の視点と授業者の視点～」を研究主題・副題として全体研究を行った。個別最適な学びの実態について、各教科の教科特性を生かした多様な実践を通して明らかにしていくことを目的とした研究である。これを受けて、本校道徳部会（以下、「本部会」）では「個別最適な学びを取り入れた道徳授業の在り方」を研究主題に、思考ツールの選択や話し合い活動における話題の選択場面を設定した授業づくりを通して、道徳授業に対する個別最適な学びの効果的な取り入れ方を探ることを目的とした研究を進めてきた。本稿は、上記の研究の中で取り組んできた授業づくりのうち、令和6年度道徳教育実践交流会において提案した2つの実践を報告するものである。

### II 本部会のこれまでの取組

中学校の道徳の時間が「特別の教科 道徳」（道徳科）として全面実施されるようになり5年が経過した。2015年に文部科学省が示した「論点整理」では、「考え、議論する道徳」への質的転換により、従来の「読み物道徳」から脱却し、問題解決型の学習などを通して、自分ならどのように行動するかを考えさせ、他者との議論の中で道徳的諸価値について多面的・多角的に学び、実践意欲に結びつけていくことが大きな目的であるとされている。

本校においても、道徳部員を中心に「考え、議論する道徳」の授業構築のために工夫をした教材の開発と共有、情報交換を行っている。具体的には、職員向けの道徳通信発行や生徒アンケートの分析などを通して校内の指導体制を充実させ、前述の目的達成に向けた取組を継続している。また、千葉大学教育学部で実施されている道徳プロジェクト会議に道徳部員が参加し、学部教員とも連携して授業づくりを行っている。

このような授業づくりの中で、特に本部会が継続して実践しているのが以下の2点である。

1点目は、思考ツールを活用した授業実践である。明治大学の諸富ら（2020）は、「考え、議論する道徳」の授業を実践するためには、一定レベル以上の道徳的思考と道徳的な話し合い活動を子どもたちができるように

促すことが必要だとしている。具体的には「多角的」で「多視点的」な思考や話し合いであると論じており、その実現に有効なものとして、思考ツールが取り上げられている。本部会では、思考ツールを取り入れたワークシートや板書をもとにした授業実践を継続しており、思考ツール活用の効果は、生徒アンケートの分析によって、道徳的な課題を捉えさせやすくしたり、深い思考を促したりしていることが明らかになっている。

2点目は、ICTの積極的な活用である。GIGAスクール構想による「一人一台端末時代」を迎えてから4年が経過した中で、本部会では道徳授業におけるICTの効果的な活用について実践と検証を重ねてきた。例えば、思考ツールなど授業資料の提示に際しては大型電子黒板やGoogle Classroomを活用している。また、生徒の意見を収集する際にはGoogleフォーム、収集した意見を整理・分類する際にはOpenAI社が開発した生成AI: ChatGPTを活用している。こうした取組の効果としては、複数の資料共有が容易になった点や、教師の授業準備にかかる時間の短縮などが挙げられる。他方、生徒にとっても、ICTの活用が教材理解の深まりや、書くことが苦手な生徒に対する支援につながっている点などが効果として挙げられる。

### III 実践における個別最適な学びと協働的な学び

本部会では、「考え、議論する道徳」の授業構築のために個別最適な学びを取り入れた実践を行っている。具体的には、前述した道徳的思考の深まりや道徳的な話し合い活動を促すための手立てとして個別最適な学びを取り入れている。

個別最適な学びは、生徒自身に学習を委ねる部分が大きいと、道徳的諸価値についての理解が一面的なものになってしまう可能性がある。中教審答申（2021）においても、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないような配慮が必要だと指摘されている。そこで、生徒自身とは異なった価値観と接する機会をつくる、いわゆる「協働的な学び」を実践することも必要である。

こうした考えに基づいて実践した、1年生および2年生の道徳授業について報告する。

#### IV 実践

##### 1 1年生の実践【主題名：クマの駆除から考える自然愛護のかたち（D(20)自然愛護）】

###### (1) 授業のねらい

- クマの駆除という問題に対する「クマを守る立場」と「人を守る立場」それぞれの主張を考える活動を通して、よりよい自然愛護のかたちを模索しようとする、道徳的判断力を育てる。

###### (2) 展開（2時間展開）

	学習活動と主な発問（○）	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価（☆）
導入 5分	1 エサやり防止の写真を提示し、何を示しているか考える。  「クマを保護するべきか」「クマを駆除するべきか」話し合う活動を通して「よりよい自然愛護のかたち」を考えよう	・クマに関連する内容	・発表された意見を踏まえ、本時のねらいを示す。
展開 25分  20分	2 両者の主張について考える。 ○2つの立場の人の主張について、使いやすい思考ツールを選んで考えてみよう。 ・教材の内容を把握し、両者の主張について考える。他者と意見交換し、全体で共有する。 3 話し合いの話題を考える。 ○クマとの付き合い方について追究するためには、どのような話題で話し合うといいだろうか。 ・資料の内容も踏まえ、次の時間に話し合いたい話題を考える。	(保護するべき) ・エサを与えた人間が悪い。 ・ヒグマも生命の一部だと思う。 (駆除するべき) ・人の安全のためには仕方無い。 ・何かあってからでは遅い。  ・「ゾーンニング」の是非 ・クマが絶滅した場合の影響 ・人の行動とクマ被害拡大の因果関係	・課題に対して、自分で思考ツールを選択し、取り組むように指示する。様々なツールの活用見本を提示し、参照させる。 ・両者の主張について考える際、片方の主張だけに集中しないように声をかける。 ・追加資料を配付する。 ・班で話し合いながら考えてよいことを伝える。 ・Google フォームを活用して話題を収集し、次の時間までに集約・整理する。
導入 5分	4 前時の内容を復習し、本時の目標及び活動を確認する。		・本時のねらい（前掲）を確認する。
展開 25分  15分	5 クマとの付き合い方について追究するために、自分達でテーマを設定して話し合う。 ・本時で扱う話題を確認して自分が話し合いたい話題を決める。 ・話し合いたい話題について、前時の内容の振り返りや追加調査を行う。 ・グループで話し合った後、学級全体で共有する。 6 どのようにクマと共存していくべきか班で話し合う。 ○できるだけ多くの人々が納得するためには、どのようにクマと共存するべきだろうか。	(「責任」がテーマの場合) ・人間の活動がクマ被害を助長しているケースもある。 ・温暖化等の影響でクマが出没している可能性があり、駆除するべきか迷う。 (「金銭」がテーマの場合) ・駆除には大金が必要なため、できるかぎり保護するべきだ。 ・保護にもお金がかかる。  ・人間とクマが住む所を分けるため、電気柵を使ったり、山に入るルールを厳格化したりする。	・Google スライドを用いて話し合いたいテーマごとにグループを決める。 ・5人以上のグループを作らないよう指示する。 ・グループ決定後、自分の意見を考える時間をとる。 ・話し合った内容はGoogle スライドに入力するよう指示する。  ・どちらの立場をとるべきか明確に決定しづらいことを確認し、できるだけ多くの人々が納得するクマとの共存方法を考えるよう促す。
終末 5分	7 授業を振り返って、よりよい自然愛護の形について考える。 ○よりよい自然愛護のかたちを実現するために、大切なことは何だろうか。	・適切な距離感が大切。 ・人間だけでなく他の動物のことも考えて生活する。	・振り返りは「未来へのヒントカード」に入力させる。 ☆様々な立場を踏まえ、よりよい自然愛護のかたちを模索しようとしているか。

- 教材…「ソーセージ」の悲しい最後（光村図書『中学道徳1 きみがいちばんひかるとき』より）

2 2年生の実践【主題名：寛容とは（B(9)相互理解，寛容）】

(1) 授業のねらい

- ・教材『ジコチュウ』を通して、人によりよい関係を築くための「寛容さ」のあり方を模索しようとする、道徳的判断力を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問 (○)	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価 (☆)
導入 5分	1 身近な生活から本時の内容について考える。 ○文化祭が迫り、放課後活動することにクラスで決まったが、今日は残れない事情がある。自分だったらどうするか。	・友人に事情を伝えて帰る。 ・自主的に残っているだけなので事情を伝えずに帰る。 ・他の人に申し訳ないので残る。	・選択肢を示す。 ①詳しい事情を伝えずに帰る ②詳しい事情を伝えて帰る ③事情を我慢して残って準備する ④その他 ・本時のねらいを示す。
人によりよい関係を築くための「寛容さ」について考えよう			
展開 20分	2 教材の内容を確認し、登場人物の心情について考える。 ○佐々木が帰った時の「佐々木」「僕」「班の人」それぞれの思いについて考えよう。 ・個人で考え、ワークシートに記入する。使いやすい思考ツールを選んで考えを整理する。その後、班で意見交換を行い、全体で共有する。	※内容…ジコチュウと言われる佐々木には事情があり、僕はジコチュウといったことを後悔する。 (佐々木) ・事情も知らないのに同情されたくない。悲しい。 (僕) ・みんな残るのに勝手に帰るなんてジコチュウだ。 (班の人) ・急いでいるのかな。別に気にしない。	・教材の範読後、佐々木と僕の話から、相互理解，寛容について考えることを伝える。 ・ワークシートを配付する。 ・モニターに、様々な思考ツールを写し、自分のやり方でまとめることを伝える。
20分	3 佐々木が帰る際に事情を説明すべきなのか考える。 ○佐々木は僕や班の人に事情を説明する必要があるのだろうか。 補：僕や周りに、それを知る権利はあるのだろうか。 ・個人で考え、ワークシートに記入する。共有されたスライドに名前カードをどちらの意見かが分かるように貼る。その後、班で意見交換を行い、全体で共有する。	(ある) ・すべては言えなくても、家の用事などと説明すればいい。 ・事情も言わずに帰ると自分の印象が悪くなる。 (ない) ・周りが必要以上に干渉するべきではない。 ・佐々木はそもそもやるべきことはやっている。	・それぞれの立場の心情について多様な視点から考えさせる。 ・モニターでスライドを示し、綱引きチャートを活用して全員の意見を可視化する。 ・出てきた意見を板書する。 ・本来は自主的な放課後の活動に参加しない際に、個人的な事情を伝える必要があるのか。自分がすべきことを終わらせたのに、事情を伝えず帰ってはまずいのか、と問いかけを行い、生徒の心情を揺さぶる。
終末 5分	4 授業を振り返って、寛容さについて考える。 ○人によりよい関係を築くために寛容さはどのくらい必要なのだろうか。	・意見等は伝え合うが、お互いの事情に干渉しすぎない。 ・すべてを理解しようとするのではなく、その人の決定や意志を尊重する。	・振り返りは「未来へのヒントカード」に入力させる。 ☆相互理解，寛容の姿について、広い視野から考えを深めることができたか。

- ・教材…ジコチュウ（光村図書『中学道徳2 きみがいちばんひかるとき』より）

### 3 実践の検証

#### (1) 思考ツールの選択

二つの実践ともに、生徒自身に思考ツールを選択させる時間を設定した。前述の通り、本部会では継続して思考ツールを活用しており、おもに導入や展開場面で道徳的諸価値に迫るための発問を行う際、生徒の考えを整理・深化させることをねらいとしている。

生徒自身が思考ルールを選択できるようにするためには、各ツールの特性を生徒に理解させる必要があり、本部会では以下の二つの段階を設定している。

一つ目の段階では、教師が様々な思考ツールを提示する。毎回の授業ごとに教師が最適だと考える思考ツールをワークシートや板書に取り入れ、振り返りの時間に、活用した思考ツールについてまとめさせている。

(図1)




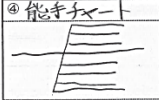
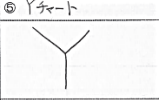
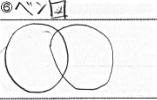

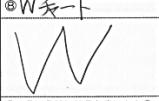
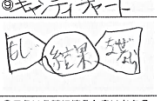
① フッシュボード 	② バタフライチャート 	③ タイムモニタリング 
◎こういう時に使うと良いかも？ 一つの大まかなテーマに、 文法(色)な視点を持つ てテーマについて考えら れるため、話し合いや 全社で使う資料など使え	◎こういう時に使うと良いかも？ 意見がわかれたとき に、二つの意見の賛 成か反対かを決める のに使えます。	◎こういう時に使うと良いかも？ 計画を立てる時に 何か大事なものを使 うとよさそう。
④ 能率チャート 	⑤ Yチャート 	⑥ ベン図 
◎こういう時に使うと良いかも？ 場面を想像して 自分と他の人が思 ったことを書く。	◎こういう時に使うと良いかも？ 色んな立場の人に ついて考えると役に 立つ。	◎こういう時に使うと良いかも？ 異なる意見のなか で、自分の考えとそれ の相違点をまとめる のに使えます。
⑦ Xチャート 	⑧ Wチャート 	⑨ マインドマップ 
◎こういう時に使うと良いかも？ 個人グループで話し 合っているときに、それ ぞれの意見を書くこと、	◎こういう時に使うと良いかも？ みんなで意見を交 渉するときに使え	◎こういう時に使うと良いかも？ アイデアをまとめて その結果と理由 を考えるとき。

図1 生徒が作成した思考ツール一覧

概ね生徒が慣れてきたら、二つ目の段階として使いやすい思考ツールを選択させる。1年生の実践では、クマの保護と駆除という二つの主張の根拠について考えさせる際、思考ツールを選択させた。このとき、生徒たちは前述の表(図1)を参照して使いやすい思考ツールを選択していた。

このように段階を踏んで授業を行うことで、多くの生徒が自分で使いやすい思考ツールを円滑に選択することができた。道徳的価値の理解という授業のねらいに向けて、教師が示した思考ツールではなく自分で選択したもので考えを深めていく過程は、まさに個別最適な学びだといえる。

なお、自力で選択することが難しい生徒に対しては、教師が思考ツールの活用見本を示すなど、個別支援を行っている。

2年生の実践では、立場の異なる三者の心情について考えさせる際に、思考ツールを選択させた。多くの生徒が「Yチャート」を活用して考えを整理していた中で、「ベン図」など他の思考ツールを選択する生徒も見られた。以下は、授業後に実施した聞き取り調査から思考ツール選択の理由についてまとめたものである。

**生徒A：選んだ思考ツール「Yチャート」**  
理由…三者それぞれの心情を分かりやすく整理できて、“佐々木が帰った”という出来事の本質を様々な視点から考えることができると思ったから。  
**生徒B：選んだ思考ツール「ベン図」**  
理由…立場は異なっているけど、二者または三者の中で共通する心情があるのではないかと教材を読みながら考えたから。

また、思考ツールを活用してよかった点について生徒Cに尋ねたところ、「帰る理由を言わなかったという事実が対立の原因だと思っていたけど、態度など他の原因にも気づき、よりよい人間関係を築くための寛容さについて理解が深まった」という回答が得られた。思考ツール選択という個別最適な学びを取り入れることで、道徳的価値の理解を深めることができたといえる。

#### (2) 話し合い活動における話題の選択

1年生の実践では、クマの駆除の是非について考えを深めるために話し合い活動を行った。これまでの授業では、クラス全体で共通の話題(テーマ)が設定され、それについてグループごとに話し合う形が多かったが、本実践では生徒が話題を選択できるようにした。まず第1時で、クマの保護と駆除についてそれぞれの背景や影響などを調べさせ、具体的に話し合いたいと思う話題を考えさせた。授業者が生徒から話題を収集する際には Google フォームを活用し、収集した話題は ChatGPT を活用して分類・整理した。(図2)

①熊と人の共存の可能性	②熊と人の命の価値
③生態系のバランス	④熊の保護と駆除
⑤熊の危険性と被害	⑥人間の責任と自然破壊
⑦他の危険生物との比較	テーマ:

図2 集約された話題

続く第2時で、集約された話題の一覧を生徒に提示し、自分が話し合いたいと思う話題の場所に移動させ、話し合い活動を展開した。人数調整を円滑に行うため、話題と希望者の対応について Google スライドを活用して可視化した。(図3)

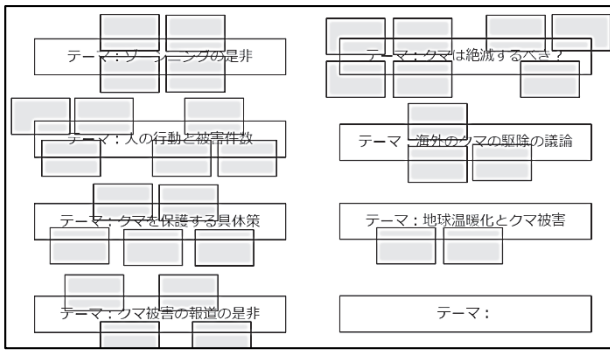


図3 人数調整の際に活用したスライド画面  
(注：小さなマスには生徒の個人名が入る)

個別最適な学びとして、生徒の興味関心に合わせた話し合い活動を設定したが、話題が異なることで深められる道徳的価値にも差が生じる可能性がある。本実践では授業の導入場面で「話し合う活動を通してよりよい自然愛護のかたちを考えよう」と、授業のねらいをあらかじめ生徒に提示することで、最後の発問につなげることを意識した。また、前述の話し合い活動に続いて、多くの人々が納得するクマとの共存方法についてグループで考えさせた。このように、生徒が他者との意見交換を通して多様な価値観に触れる機会を設定することは「多角的」で「多視点的」な思考を促すことにつながり、個別最適な学びには「協働的な学び」も取り入れることが大切だといえる。

以下は、授業後に実施した聞き取り調査から自分で話題を選択できる効果についてまとめたものである。

生徒D…自分の興味のある話題だから話し合いが進めやすかった。もともと知識のあることだから、それも活かすことができた。

生徒E…調べやすいし、話しやすい内容だから深めていくことができた。グループのメンバーも同じ感じなので、話し合いがよく進められた。

生徒F…人それぞれ価値観が違うので、自分が大切にしたいことを尊重して話し合いをする今回の授業は、先生が決めた話題で話し合いをするやり方よりも良かったと思う。

聞き取り調査から、道徳的な思考や話し合い活動という点において肯定的な回答が多く得られた。個別最適な学びを取り入れたことで、「考え、議論する道徳」の授業実践につながったといえるだろう。

## V おわりに

本稿では、個別最適な学びを取り入れた道徳授業の実践について報告した。道徳科の目標は、道徳的諸価値の理解を通して生徒の道徳性を養うことである。個別最適な学びは、生徒の学習意欲を喚起する点では有効だが、一方で学習が孤立したり、授業のねらいから逸脱したりしてしまう懸念もある。そのため、他者の考えに

触れる機会を意図的に設定するなど、「協働的な学び」を取り入れる必要性が明らかになった。

授業場面という視点では、導入場面や、授業のねらいに関わる主発問につなげる展開場面において、個別最適な学びがより有効だと考えられる。1年生の実践では、クマの駆除の是非というテーマについて自分で選択した話題を話し合わせることで、教材には書かれていない社会情勢や因果関係まで理解を深める生徒の姿が見られた。そうすることで、よりよい自然愛護のかたちを考えるという授業のねらいに迫ることができたといえる。2年生の実践においても、教材の登場人物の心情を、自分で選択した思考ツールを活用して整理させたことで、多様な視点から寛容さについて考えを深めさせることができた。一方、授業のねらいである道徳的価値に迫る終末場面における個別最適な学びの有効性については、今後検討が必要である。

また、個別最適な学びを取り入れた道徳授業の実践には、ICT活用が大きく寄与することも明らかになった。1年生の実践では、生徒が考えた話題を収集・整理・分類する際にGoogleフォームやChatGPTを活用することで授業を円滑に進行することができた。

ICTや「未来へのヒントカード」、思考ツールの活用など、これまでの実践から得られた知見も十分に踏まえ、今後も個別最適な学びを取り入れた道徳授業の在り方について実践と検証を続けていきたい。

## 参考文献・資料

- ・千葉大学教育学部附属中学校：「多様な実践から考える個別最適な学び～学習者の視点と授業者の視点～」(第59回中学校教育研究会全体総論)，2023
- ・中央教育審議会：『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～(答申)，2021
- ・諸富祥彦，土田雄一，松田憲子：『中学校道徳サポートBOOKS 考えるツール&議論するツールでつくる中学校道徳の新授業プラン』，明治図書，2020
- ・文部科学省：教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)，2015  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm) (2024.12.10 閲覧)
- ・文部科学省：『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』，2017